

令和5年度 第1回大阪府景観審議会 会議要旨

開催日時：令和6年3月28日（木）15:00～17:00

出席委員：黒坂委員、神農委員、武田委員、久委員、
上向井委員、黒川委員、長曾我部委員、島田委員、
三橋委員、横道委員、田中専門委員、林専門委員

（1）ビュースポットおおさか発掘・発信プロジェクトについて（報告）

○委員

- ・様々な取組により、応募数も過去最多、SNSのフォロワー数も着実に伸びており、今後、さらなる拡大を図るためにどのように取り組んでいくのかが重要。
- ・アイデアレベルだが、フォトコンテストやショートムービーコンテスト、ガイドブックの解説文をコンテスト形式で募集するなど様々な取組が考えられる。また、スマホで近隣のスポットを容易に探すことができるようにするなど、巡ってもらうための仕掛けづくりも大事。
- ・また、景観の魅力を伝える際にはデザイン性の向上も重要な視点。チラシやポスター、ガイドブックのデザインはすごく良いが、例えばガイドブックの地図のページについて、等高線が入っていて地形がわかる地図上にビュースポットの位置を示すことや、各交通機関との関係性などについては、予算上の課題もあると思うが、プロの視点を取り入れることを考えても良いのではないかと。

○会長

- ・デザイン込みで印刷会社に発注する方法もある。工夫しながら、より良いものにできれば。
- ・ビュースポットの名称についても、現在は「●●から眺める○○」となっているが、愛称募集しても面白いと思う。

○委員

- ・インターネット上の情報にたどり着くのが難しい場合があるので、チラシやパンフレットの配布場所を空港やターミナル駅に広げ、QRコードの活用などにより観光客や出張のビジネスマンなどの誘導を図るとよいのではないかと。

○会長

- ・例えば市町村の景観ホームページや旅行会社のホームページなど、様々なところにリンクがあっても良い。バナーを提供し、様々なところからビュースポットおおさかのホー

ムページにたどり着けるようにするのも良いのではないか。

○委員

- ・アスマイルは歩いて回る人が中心となるので、車や自転車の方などが周遊できるデジタルスタンプラリーを行うことも有効。

(2) 公共事業における景観面でのPDCAサイクル制度について（報告）

○専門委員

- ・部会に参画している立場から、担当者に景観を理解していただける場合と、理解していただけない場合があり、難しい面を感じる。
- ・全体のコンセプトを明確にさせていただき、それに基づいて各部分のみ修正するのではなく、その中心に人がいるという景観の考えを理解していただくのが重要。
- ・建築物・構造物のみをパースで表現されていることがあるが、公共施設は周囲を引っ張る役割があるので周辺との関係性がわかるパースも重要。そこまでの検討が部会の役割でうまくリードできるとよい。

○専門委員

- ・公共事業アドバイス部会委員と設計者のやり取りによって、こんごう福祉センターのようになりに良くなったと思うところもあり、充実した部会であると感じている。
- ・一方、設計条件や予算面を理由に対応が難しいと言われる案件については、担当者の方に対して、デザイン性の高いものを作れば、まち全体のシンボルとなり、まちを下支えする存在になるんだというマインドになってほしいと感じる場面もある。橋梁や駅舎については、見られるものであるという前提で、もう少し予算が確保され、設計の自由度が高くなるよう、景観担当の立場からも働きかけができないか。
- ・また、駅舎や団地の再開発など地域スケールで複合的に敷地周辺との関係性を考えなければならない案件の景観検討の難しさを痛感した。
- ・例えば駅舎であれば、駅前広場等を含め、本当は地域レベルでのマスタープランがあるべきで、その中で駅舎の設計を考えていくべきであり、構造物単体で考えるのにも限界があると感じている。公共事業で地域開発する前の段階のプランの検討を丁寧にするべきで、この点においてPDCA制度の改良の余地があるのではないか。

○委員

- ・府営住宅の建替の際に、景観をしっかりと考えていただくことによって、新たなまちづくりも進むと思われる。市町村や、地元の町会等を連携しながら進めていただきたい。

○会長

- ・地域の魅力向上のための仕掛けとして、公共施設が使えないかということについて、私が携わった最近の事例をご紹介します。
- ・茨木市の子育て文化複合施設の「おにクル」は、市民参加型で、8年間かけて徹底的にデザイン面も含めた検討を行ってきました。開館3ヶ月で、既に来場者が50万人を超しており、これは観光資源ということもできる。建物をつくれれば、人が集まり、お金も落ちるという考え方に立てば、単に建設費だけで判断しないということにもなると思う。

○委員

- ・基本計画、基本設計、実施設計の3段階で実施しているのは、丁寧なプロセスでよい。
- ・幅広い分野の景観に関わる専門家を景観アドバイザーとしてリストアップし、それぞれの分野でふさわしいアドバイスを個別にいただく方法もあるのでは。

○会長

- ・今、部会でアドバイスをしていますが、景観アドバイザーとして委員方をリストアップし、それぞれの分野でふさわしいアドバイスを個別にいただくやり方もあるのではないか。
- ・こんごう福祉センターの地名である、甘南備の由来が甘南備山という神様が宿る場所ということのように、地名から気づけるような知識を体得し、設計デザインに反映していくことができるということも重要。また、土地の履歴を考えることが地域性を持った設計に繋がるので、府職員には、地名や地形の痕跡などを設計段階の初期から考えることができるよう取り組んでいただきたい。
- ・予算面での制約については、いいものを長く使おうという発想や地域のシンボルとして位置付けると、人が集まり、かけた費用を早々に回収できるという考え方もあるので、イニシャルコストだけで判断しないという意識共有も必要。
- ・また、予算をかけずに創意工夫でよいデザインにできる方法もたくさんある。予算をかけずに工夫したよい事例を共有することも大切。
- ・複数のデザイナーが関わる際にどのように調整機能を働かせるかということは、デザインの問題ではなくシステムの課題であるので、ぜひご検討いただきたい。複数の設計者が存在する場合には、設計当初から一緒に考える場所を作ることが大切で、行政職員がリードしていくことが重要。

(3) その他報告事項

- ・特になし